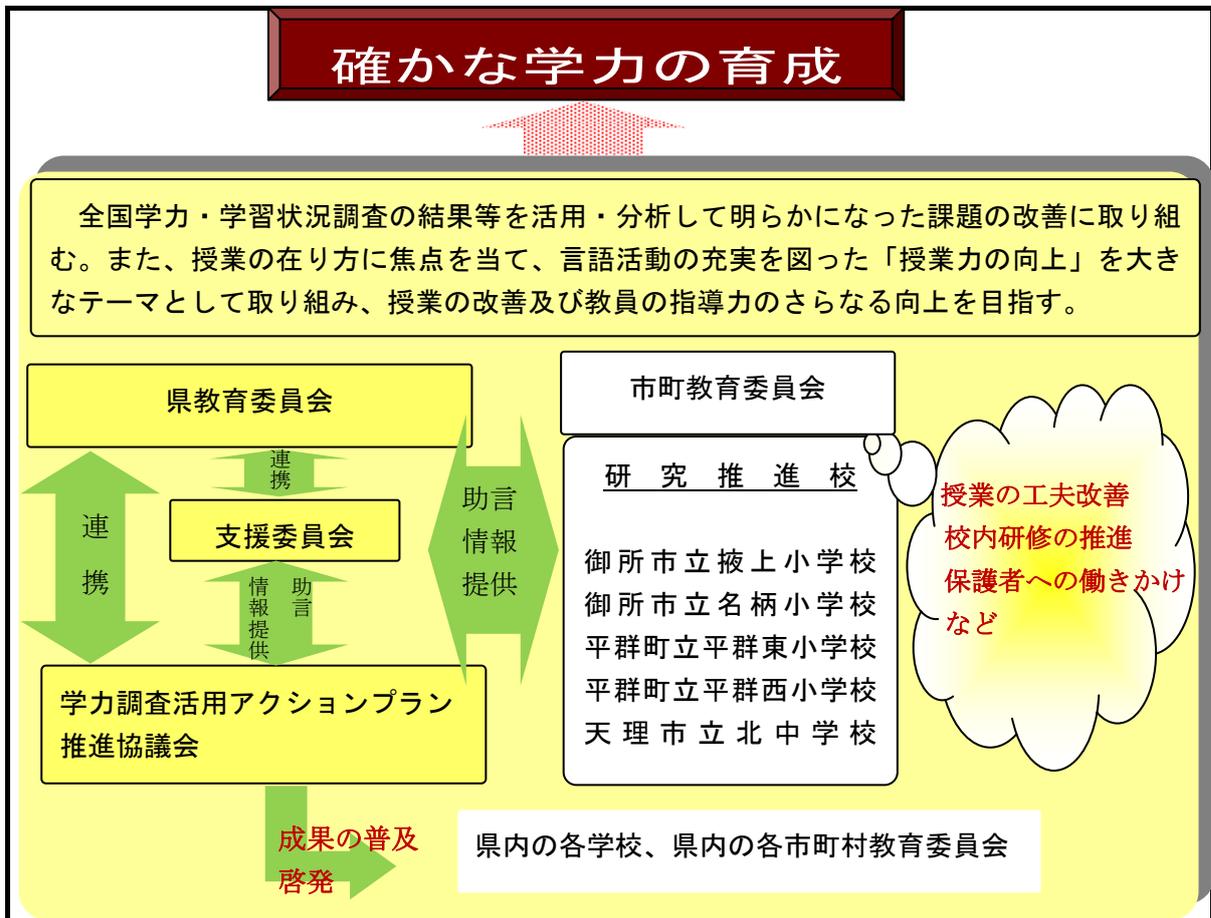


「確かな学力の育成に向けて」

1. 事業の実績

(1) 事業の実績の説明

【取組の概要】



【取組の内容】

①具体的な取組内容について

(1) 学力調査活用アクションプラン推進協議会の設置

学識経験者、研究推進校長、県教育委員会を構成員とした学力調査活用アクションプラン推進協議会を設置し、年間2回の協議会を開催した。

- 第1回 H22.9.30 趣旨説明、アクションプランについての検討、学校改善支援プランの検討・協議、授業力向上研修会についての検討・協議
- 第2回 H23.2.24 事業総括、推進校の取組の成果と課題についての協議

(2) 実践研究の実施

アクションプランに基づき、実践研究を行う研究推進校に対し、必要に応じて指導主事を派遣して、必要な指導・助言を行うとともに実践研究の進捗状況を把握した。設置市町教育委員会に対しても研究推進校の取組に対して適切な助言を行うよう指導した。また、確かな学力の育成に係る実践的調査研究支援委員会の助言をもとに実践研究を進めた。

(3) 授業力向上に向けた取組

① 学力向上研修会の実施

研究推進校において、全国学力・学習状況調査の調査結果を分析し、明らかになった課題の解決に向けて学力向上研修会を2回開催した。研修会では、課題改善に向けた授業を公開するとともに、言語活動の充実を図る取組について講演会や実践交流等を行った。

○ H22. 12. 3 御所市立名柄小学校において

「全国学力・学習状況調査B問題を使った読み取る算数」の授業公開や学校の取組の報告、「学力向上に資する言語活動の充実を目指して」と題した講演会を実施し、活発な協議や意見交流を行った。



【算数コーナー】

○ H23. 2. 4 平群町立平群西小学校において

「学ば楽しさと分かる喜びを目指した取組」の報告及び授業公開や「これからの算数科教育と言語活動」と題した講演会を実施し、活発な協議や意見交流を行った。



【研究授業 第6学年】

② 算数・数学パワーアップ講座のWebページへの掲載



平成21年1月より、全国学力・学習状況調査の算数・数学の問題に基づいた指導例を「算数・数学パワーアップ講座」として、奈良新聞に毎週1回（現在は隔週）連載している。この指導例は、教員の算数・数学科の指導に役立つとともに、広く県民にも全国学力・学習状況調査の問題やその指導例を周知し、家庭での学習の参考や共通の話題にもできるように作成した。

また、一部をWebページに掲載することにより広く県内に周知した。

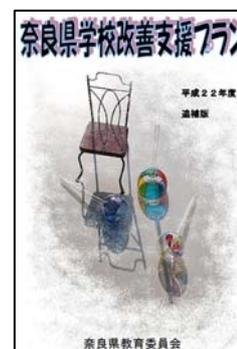
算数・数学パワーアップ講座 <http://www3.pref.nara.jp/site/dd.aspx?menuid=1364>

【奈良新聞掲載】

(4) 奈良県学校改善支援プランの作成

平成22年度全国学力・学習状況調査の調査結果を分析し、「奈良県学校改善支援プラン」を作成し、Webページに掲載した。奈良県学校改善支援プランでは、調査結果から見られる本県の児童生徒の姿や課題を示し、明らかになった課題の解決に向けた学校の取組や学校に対する教育委員会の支援策等をまとめた。

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-20259.htm



【奈良県学校改善支援プラン】

(5) 教科等研究会と連携した取組

教科等研究会の活動と連携を図り、研修会・研究大会等の機会に、指導主事が指導・助言を行った。また、小・中学校教科等研究会が作成している学力診断テストに、全国学力・学習状況調査の問題づくりのポイントを取り入れるよう助言を行った。

小学校算数科の学力診断テストでは、調査問題とは別に全国学力・学習状況調査の問題に基づいた「考えよう」の大問1問を作成し、その結果について分析・考察して研究発表会で報告した。

(6) 奈良県学力向上フォーラムの開催

平成23年2月14日、県立教育研究所において、本年度の全国学力・学習状況調査における本県の状況と課題を踏まえた改善の方向性及び確かな学力の育成に係る実践的調査研究



【奈良県学力向上フォーラム】

の研究成果を広く周知する機会として、「平成 22 年度奈良県学力向上フォーラム」を約 200 名の教職員等の参加を得て開催した。

フォーラムでは、全体会で、全国学力・学習状況調査の分析結果の報告や研究推進校である御所市立掖上小学校と平群町立平群東小学校の実践発表を行った。また、分科会では、学校改善、国語科の授業改善、算数科の授業改善の 3 分科会に分かれて実践交流や活発な協議が行われた。

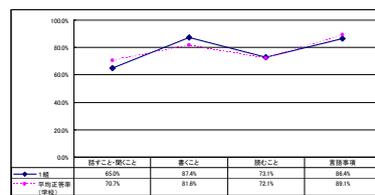
http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-20265.htm



【研究報告書ダイジェスト版(リーフレット)】

(7) 平成 22 年度全国学力・学習状況調査 集計・分析ソフトの作成・配付

全国学力・学習状況調査を実施校に対して、集計・分析に役立つ県独自の集計・分析ソフトを作成し、5月に配布した。出力できるシートは①個票(教科に関する調査)②個票(児童生徒質問紙)③クラスと学校全体の比較表④クラス別成績一覧表⑤散布図である。



【①個票(教科に関する調査)】

(8) 奈良県教育委員会としてのその他の取組

○ 県立教育研究所学校アドバイザーチームとの連携

学校改善の方向性や具体策を示し、学校経営に取り組む管理職や教育活動に取り組む教員を支援することを目的に各学校を訪問している学校アドバイザーチームとの連携を図り、各学校の取組について情報交換を行った。

○ 県立教育研究所が主催する研修講座との連携

県立教育研究所が主催する研修講座において、授業力向上を目指した研修の充実に努めるとともに、基本的な生活習慣の確立や家庭教育の充実に向けた内容を取り上げ、教員の研修を深めた。

②実践事例の評価・成果の普及に関する取組について

(1) 研究報告書ダイジェスト版(リーフレット)及び研究報告書の作成・配付

本事業の取組の概要とその成果等を広く県内に普及・啓発するために、奈良県学力向上フォーラムで研究推進校の実践発表を行うとともに研究報告書ダイジェスト版を作成し、県内全ての小・中学校の教員に配付した。また、各推進校の取組の詳細については、リーフレットに各学校のURLを掲載し、Webページで詳細を見られるようにした。



【研究報告書ダイジェスト版(リーフレット)】



【確かな学力の育成のための支援マップ】

リーフレットには、確かな学力を育成するという観点から教員の指導力や家庭の教育力を高めるための県教育委員会作成の資料等をまとめ、支援マップとして掲載した。

また、研究報告をまとめた冊子を作成し、県内各学校及び市町村教育委員会に配付し、普及・啓発を行う予定。

(2) 「奈良県教育の日」に関連した全県的なアピール

本県では、「教育に対する県民の意識や関心を高めるとともに、家庭、地域社会及び学校が一層連携を深め、奈良県教育の充実と発展を図ること」を目的として平成15年に「奈良県教育の日」（毎年11月1日）を制定し、全県的に公開授業の実施や教育に関する講演会など様々な取組を行っている。

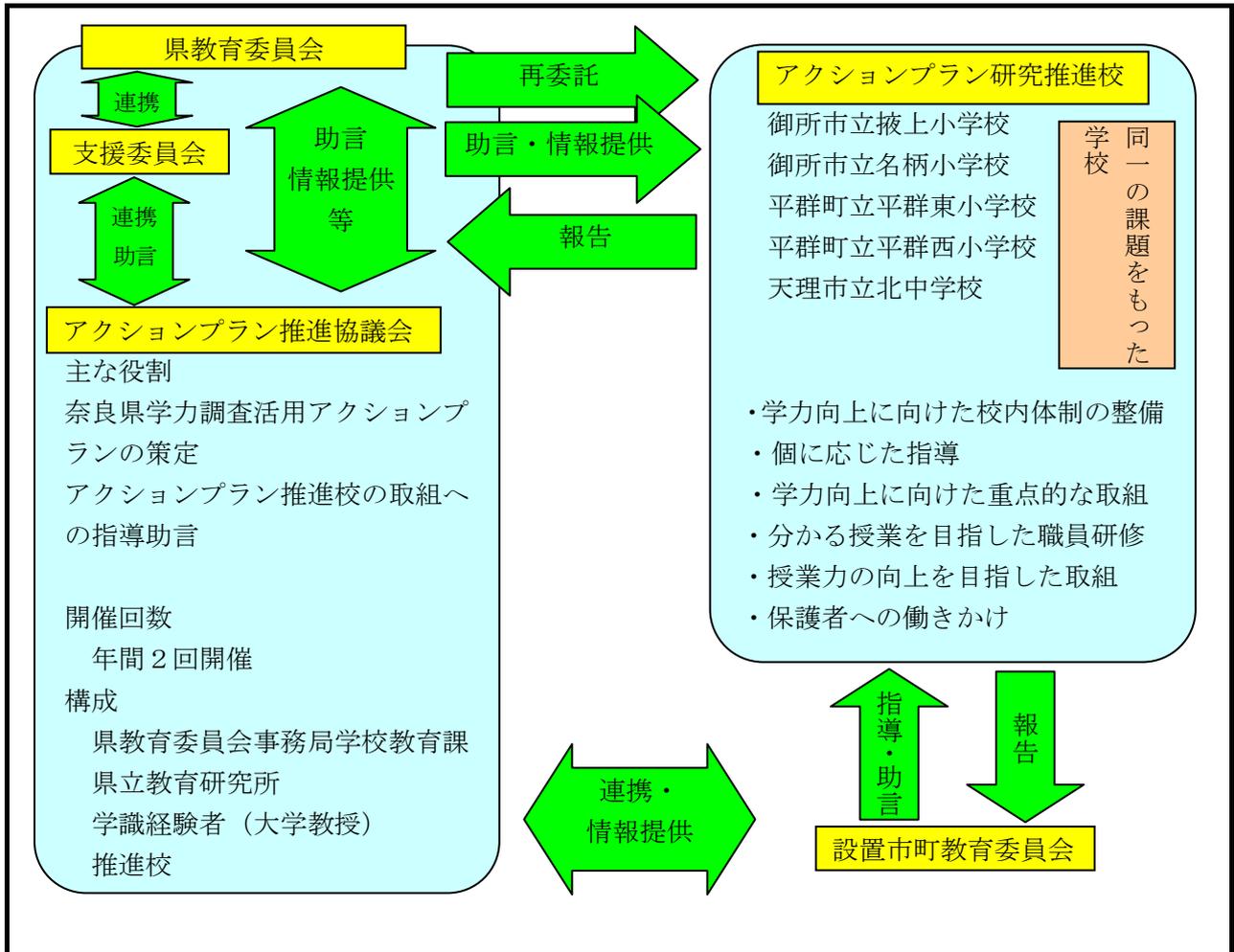
今年度は、県民教育フォーラムにおいて、教育委員会からの提言や取組報告、意見交流を通して、子どもたちとの向き合い方・関わり方を考えた。



(2) 実施日程

実施時期	計 画 事 項	備 考
4月		・全国学力・学習状況調査の実施
5月	・平成22年度全国学力・学習状況調査の集計分析ソフトの作成・配付（希望利用校）	
6月		
7月	・研究推進校、推進地域への訪問 ・平成22年度全国学力・学習状況調査の集計分析ソフトの作成・配付（抽出対象校）	
8月	・算数・数学パワーアップ講座編集会議 ・研究推進校、推進地域への訪問	・県小学校・中学校教育課程説明会の開催
9月	・第1回確かな学力の育成に係る実践的調査研究支援委員会 ・第1回学力調査活用アクションプラン推進協議会	
10月	・第2回確かな学力の育成に係る実践的調査研究支援委員会 ・研究推進校、推進地域への訪問	
11月	・県民教育フォーラムの開催 ・研究推進校、推進地域への訪問	・県学力診断テストの実施
12月	・学力向上研修会①（御所市立名柄小学校） ・学校改善支援プランのWebページへの掲載	
1月	・研究推進校、推進地域への訪問	・県学力診断テストの結果考察の報告
2月	・学力向上研修会②の開催（平群町立平群西小学校） ・平成22年度奈良県学力向上フォーラムの開催 ・研究報告書ダイジェスト版（リーフレット）の作成・配付 ・第2回学力調査活用アクションプラン推進協議会	
3月	・研究報告書の作成・配付	

2. 事業の実施体制



3. 事業による成果の概要

[総論]

授業の在り方に焦点を当て、言語活動の充実を図った「授業力の向上」を大きなテーマとして取り組み、授業の改善及び教員の指導力のさらなる向上を目指した。研究推進校では、それぞれの学校や地域の実態に応じた取組を行い、改善が図られた。

研究推進校では、効果的に授業研究を進めるため校内体制の整備を行うとともに、学習規律の確立や家庭での学習課題など、授業と家庭をつなぐために保護者との連携を図る取組を行った。また、子どもに満足感と達成感を味わわせるとともに、言語活動を効果的に取り入れた授業の在り方を追求する実践研究を実施した。さらに、積極的に授業公開を行ったり、研究授業を行ったりすることで指導力の向上に努めた。

県教育委員会では、本事業の取組の概要とその研究成果を広く県内に普及・啓発するために、研究報告書ダイジェスト版を作成し、県内全ての小・中学校の教員に配付するとともに、取組の詳細をWebページに掲載した。また、研究報告をまとめた冊子を作成し、県内各学校及び市町村教育委員会に配付した。さらに、県教育委員会が作成した算数・数学パワーアップ講座や小・中学校教科等指導資料など授業改善に役立つ資料等をまとめ、支援マップとして、Webページに掲載し、いつでも活用できるようにした。

[実践事例の評価、成果の普及に関する取組について]

- 研究推進校の取組の概要

●御所市立掖上小学校「自ら考え、問題を解決しようとする子どもを育てるために」

・算数的表現力を高める授業

子どもたちが言葉・数・式等を用いて自分の考えを説明する場面を設定する。



・メタ認知を高める取組

毎時間、授業の終わりに何が分かり、分からなかったのかを振り返る算数日記に取り組む。



●御所市立名柄小学校「分かる授業～よみとる算数～」

・分かる授業づくり

基礎・基本を身に付けるとともに算数的活動を通して自分が考えたことを表現し、説明する力を育成する。

・環境づくり

授業時間だけではできないことを、生活の中や遊びの中で身に付けられるように算数的活動に役立つ環境を整える。

●平群町立平群東小学校「書く力を高める授業の研究」

・書く力の基礎・基本の習得に向けて

取材、構成、記述などの書く過程で、語彙の拡充や技能の習得のための手立てを工夫する。



・書く意欲につながる評価・交流を目指して

伝える楽しさや喜びを実感し、書く意欲が高まる評価・交流の場を設定する。

●平群町立平群西小学校「学ぶ楽しさ、分かる喜び」

・社会性を高める授業

相手を尊重しながら自分の気持ちを伝える方法を学ぶ授業（アサーショントレーニング）を行う。



・学習意欲を高める取組

学習意欲を高める取組の一環として、「自分たちもやればできる」という自信をもてるよう卒業生の活躍を紹介する。

●天理市立北中学校「自己肯定感と基礎学力の育成を目指した取組」

・20分間読書と学力向上タイム

毎朝20分間の読書、学年の実態に応じた週1回の学力向上タイムで学習意欲と自己肯定感を育む。



・将来へのビジョンを拓くキャリア教育

進路講演会や高校説明会、高校出前授業を通して将来へのビジョンを拓くキャリア教育を推進する。

(指標1) 学力の向上

・生徒に届く言葉の力を意識した指導

個々に応じた明確な言葉での指導や示範による継続的な指導により「分かりやすい授業づくり」の基盤ができた。

・授業規律の確立と整理能力の育成

声のみの指示だけでなく文字に示すことで、生徒のすべきことが明確になった。教員にとっても曖昧な指示が改善され明確に指導できるようになった。また、テストやプリント類の保管に関して重点的に指導することで、生徒の授業への取り掛かりが早くなり、予習復習の教材として活用しやすくなった。

・概念化を図る語彙指導

小学校漢字の習得は、中学校教科書の読解に直接反映することを共通理解し、各教科の根幹となる語彙の指導を重点的に行った。概念を表す言葉の意味を重層的に理解させることで、文章の読解力や多面的に物事を考える力が少しずつ向上してきた。

・全教職員による研究授業

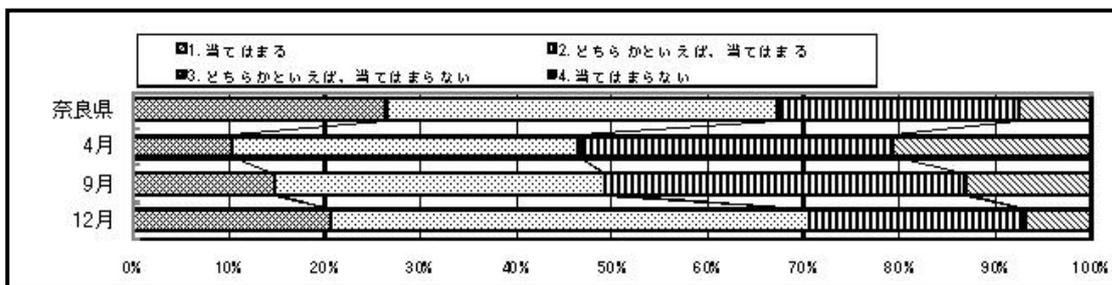
指導主事による指導を受け、教師が自分の授業を客観的に振り返ることができた。また高等学校担当の指導主事による指導を受けることで、小・中学校から高等学校への繋がりがよく分かった。生徒の実態を把握し適切な支援の在り方を考える研修を1学期に実施したことにより、教科を越えて授業の捉え方について教員間で共通理解することができた。

(指標2) 指導方法の工夫改善

- ・「自分の考えを発表する機会」や「友達と話し合う機会」が大幅に増えているにもかかわらず、「自分の考えを発表したり、文章に書いたりすることが苦手」な児童が多いことが分かった。算数科だけでなく、いろいろな教科や場面でこのような経験を重ねる必要がある。

○「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられているか」
肯定意見 (4月) 54.0% → (1月) 94.2%
○「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思うか」
肯定意見 (4月) 54.0% → (1月) 91.9%
○「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは苦手ではない」
肯定意見 (4月) 29.8% → (1月) 41.6%

- ・第6学年の「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」の質問では、4月→9月→12月と段階的に肯定的な回答が増え、4月から12月では20ポイント以上の向上が見られた。また、実施した全ての学年を通して、全体の84%の項目で児童に意識の向上が見られた。学校全体で、本研究に取り組んだ成果といえる。



【国語の授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。】

(指標3) 学習意欲の向上

- ・「好き」と「大切」の差について、国語科では「差」は縮まらなかったが、「好き」と「大切」がともに10ポイント上昇している。算数科では、「好き」が大幅に上昇し、「差」はかなり縮まった。

このほか、全体的に国語科に比べて算数科に関する項目で数値が上昇している。これは、昨年度、今年度と算数科に絞って取組を進めてきた成果といえる。同時に、言語活動の根幹を培う国語科における取組が不足していることの証左でもある。

また、自己肯定感については、24ポイント上昇した。これは、学力向上の取組だけでなく、学級経営の充実に向けた様々な取組があいまった結果である。

- ・「教科の学習が好きですか」という質問に肯定的に回答した児童の割合と、「教科の学習が大切だと思うか」と回答した児童の割合の差が縮まった。

	4月			1月		
	好き	大切	差	好き	大切	差
国語	59.4%	86.4%	27.0	70.2%	97.3%	27.1
算数	37.8%	83.8%	46.0	89.2%	94.6%	5.4

○「教科の学習内容が分かりますか」という質問に肯定的に回答した児童の割合

	4月	1月	差
国語	70.2%	89.2%	+19.0
算数	64.0%	89.2%	+25.2

○「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか」
肯定意見 (4月) 43.2% → (1月) 51.4%

○「国語の授業で意見を発表するとき、うまく伝わるように話の組立てを工夫しているか」
肯定意見 (4月) 37.8% → (1月) 51.4%

○「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けているか」
肯定意見 (4月) 67.7% → (1月) 86.5%

○「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思うか」
肯定意見 (4月) 70.3% → (1月) 91.9%

○「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるか」
肯定意見 (4月) 67.8% → (1月) 83.8%

○「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」
肯定意見 (4月) 45.9% → (1月) 59.5%

○「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」
肯定意見 (4月) 75.7% → (1月) 81.1%

○「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」
肯定意見 (4月) 62.2% → (1月) 83.8%

○その他

「自分にはよいところがあるか」

肯定意見 (4月) 54.0% → (1月) 78.4%

・成功体験の積み上げを図る課題設定

学習意欲を喚起し、それを自信と自己肯定感の向上につなげるために、学習方法の提示と生徒に学習の成果が見えるようにすることを大切に授業を構築した。特に重視したのは教科の勉強方法をまとめた「北中版勉強ガイド」の作成と学力向上タイムである。これにより生徒の成功体験の積み上げが可能となり、授業に臨む姿勢や態度が改善され、学習意欲の向上につながった。学力向上タイムは、それぞれの学年の実態に応じて教材を選定しているが、いずれもスモールステップを大切にポイントの整理と解法を具体的に示し、段階的に生徒の力を伸ばせるような教材を準備している。

・ビジョンを拓くキャリア教育

生徒の学習意欲を高めるには「学ぶ目的」をもたせることが重要である。生徒の発達段階を考慮した人格形成のためのキャリア教育（【第1学年】職業インタビュー、【第2学年】職場体験学習、【第3学年】三つの進路講演会・親子高校説明会・高校出前授業）を通して、中学卒業後の「生き方」「未来」を提示し、将来の姿を描かせることにより生徒の自己肯定感を高め、学ぶことの意味をつかませている。これらにより「高校での学び」に対するイメージが鮮明になり、進路について目標ができた生徒も多い。

